

工学研究科

博士前期課程

教育研究上の目的

本研究科の博士前期課程は、科学技術の未来を支えるに足る工学の基礎と実践的な教育のもとに、優れた研究・開発能力を持つ研究者又は高度な専門的知識・能力・技術を持つ高度専門職業人の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、工学研究科博士前期課程では、科学技術の未来を支える優れた能力を持つ技術者・研究者の育成を、教育の最終目標としています。

わが国は現在、産業構造の変革、エネルギー・環境問題への対応等、従来の教育・研究だけでは解決できない諸問題に直面しています。このような問題の解決には、自立性と創造性をもち、かつ基礎理論と基礎専門技術を修得した技術者・基礎的高度研究者が必要とされます。

本課程では、安心・安全で持続可能な社会と科学技術創造立国の基盤を支える人材を育てることを目指して、学部教育の基礎の元に専門基礎知識の修得を通して、自分の考えを表現するためのプレゼンテーション能力の涵養をも含め、知識基盤社会で活躍できる基礎専門能力を身につけさせることを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程では、各専攻におけるカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が審査のうえ合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、修士（工学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
 - (1) 安心・安全で持続可能な社会を支える技術の創造力を身につけている。
 - (2) 協調性と高い倫理性をもって、他者と協力して研究開発を遂行する能力を身につけている。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
 - (1) 外国語で討論できる外国語コミュニケーション能力を身につけている。
 - (2) 研究成果を発表し、論文としてまとめる記述力を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
 - (1) 専門分野における知識を体系的に身につけ、それを実践的に応用する能力を身につけている。
 - (2) 専門分野における諸課題を見つけ出し、解決策を自ら見出す能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士前期課程では、十分な専門基礎知識と高度な専門知識を兼ね備え、急速に技術革新が進行している状況に柔軟に適応しうる実践的な技術者を育成するために、以下に示した方針でカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1) 専門に関する高度な知識、及び専門以外の関連分野に関する幅広い知識を身につけることができるように講義科目を編成しています。
 - (2) 社会的・学術的観点から重要な研究課題に取り組み、修士論文を作成します。
2. 教育の方法と評価
 - (1) 教員の指導の下に、研究課題に取り組むことで課題解決能力を涵養し、技術開発能力を育成しま

す。

- (2)国内外の学会発表や中間審査を通し、論文記述能力ならびにプレゼンテーション能力育成のための指導を行います。
- (3)TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育能力を高める経験を積む機会を用意しています。
- (4)成績評価および修士論文基準を明確化し、公表しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1.大学院教育によって培う能力

- (1)専門に関する高度な知識、及び専門以外の関連分野に関する幅広い知識
- (2)社会的・学術的観点から重要な研究課題を解決する能力

2.本研究科の求める入学者

- (1)各専攻分野における基礎学力を有する人
- (2)専門分野をより深く修得し、人類社会にとって有用な技術開発を行うことに熱意と意欲を有する人

3.大学までの能力に対する評価(選抜方法)

本研究科では、以下の4種類の入学試験を実施しています。

- (1)一般入試は年2回実施され、大学卒業程度の学力を基礎および専門科目、語学(英語)、専修志望科目に関する口頭試問により評価します。
- (2)外国人留学生入試は年2回実施され、外国人であって修士の学位取得を目的として入学を希望する者を対象とし、大学卒業程度の学力を基礎および専門科目、語学(日本語)、本研究科が行う講義・演習科目を理解する能力について口頭試問により評価します。
- (3)特別選考入試は年2回実施され、大学卒業見込みの者および出願時に卒業後3年以内の者に対して大学での学業成績と口頭試問により評価します。
- (4)社会人特別入試は年2回実施され、経歴に関連した専門科目および語学(英語)、口頭試問により評価します。

工学研究科

博士後期課程

教育研究上の目的

本研究科の博士後期課程は、現代社会の新たな要請に応えることを目指した基礎的かつ創造的な研究指導のもとに、科学技術について、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者・技術者の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、工学研究科博士後期課程では、科学技術の未来を支える優れた能力を持つ高度専門技術者・高度専門研究者の育成を、教育の目標としています。

現在わが国の直面しているエネルギー・環境等の高度に専門的な問題の解決においては、従来の大学院教育・研究だけでは解決できません。そこで、博士前期課程で習得した基礎専門理論と基礎専門技術をさらに発展させた高度専門知識及び実践的な高度専門理論を修得させることが必要とされています。特に、実践力の向上については、国内だけでなく国際的な学会・研究会、あるいはコンペティションにおいて、先端的研究発表会を行う能力が必要とされます。

本課程では、安心・安全で持続可能な社会と科学技術創造立国の基盤を支える人材を育てることを目指して、人間社会と地球環境をとりまく複雑な諸問題を総合的に見通す広い視野と、深い洞察力をもって、自らの知的資産を最大限に活用しうる能力の涵養を通して、知識社会で活躍できる高度専門能力を身につけさせることを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程では、各専攻におけるカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が審査のうえ合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士（工学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 専門分野における学術的知識を体系的に深く理解し、それを教授する能力を身につけている。
- (2) 協調性と高い倫理性をもって研究開発のリーダーとして、研究開発を主導する能力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 研究開発の成果を国際会議等で発表し、他の研究者との討議する能力を身につけている。
- (2) 研究成果を学術論文にまとめる能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 専門分野における社会的学術的視点から重要とされる課題を見出し、解決策を考え、さらに展開させる能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士後期課程では、高度な学術的知識を体系的に深く理解し、人類社会の諸問題の解決に向け、未来を開拓する先端的研究開発に従事する技術者ならびに研究者を育成するために、以下に示した方針でカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 専門に関する最先端の高度な知識を身につけることができるように講義科目を編成しています。
- (2) 社会的学術的観点から高度な研究課題に取り組み、博士論文を作成します。

2.教育の方法と評価

- (1)教員の指導の下に、学部学生や博士前期課程学生を率いて高度な研究課題を解決する能力やグループを統率する能力を涵養し、専門的な研究開発能力を育成します。
- (2)国際学会における研究発表を通し、国際的コミュニケーション能力を育成します。
- (3)TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意しています。
- (4)成績評価および博士論文基準を明確化し、公表しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1.大学院教育によって培う能力

- (1)専門に関する最先端の高度な知識
- (2)研究グループを統率し、専門的な研究開発を遂行する能力
- (3)国際的コミュニケーション能力

2.本研究科の求める入学者

- (1)各専攻分野における高度な学力を有する人
- (2)国際的に活躍する意欲を有する人

3.博士前期課程までの能力に対する評価(選抜方法)

本研究科では、以下の3種類の入学試験を実施しています。

- (1)一般入試:語学(英語)ならびに、修士論文、専修科目についての口頭試問により評価します。
- (2)社会人特別入試:提出書類を中心に関連した専門科目および語学(英語)について口頭試問により評価します。
- (3)外国人留学生入試:外国人であって博士の学位取得を目的として入学を希望する者を対象とし、語学(日本語または英語)ならびに、修士論文、専修科目についての口頭試問により評価します。